

21世紀のごみ処理施設「今治市クリーンセンター」の取り組み



今治市クリーンセンターは、21世紀のごみ処理施設のモデルとなる施設を目指しています。環境教育と普及啓発を重要視し、「今治モデル」という市独自のコンセプトを定めて整備されました。環境啓発と防災イベントを積極的に開催し、市民が気軽に訪れ交流しやすい憩いの場を提供しています。ここでは、それらの取り組みを中心に紹介いたします。

施設コンセプト「今治モデル」

今治市は、2005年の市町村合併により緑豊かな山間部や世界有数の多島美を誇る島しょ部等、変化に富んだ地勢で構成されたまちとなりました。今治市クリーンセンターは、この合併の一つの成果として、今治・大島・伯方・大島島の4つのごみ処理施設を集約し、市で唯一のごみ処理施設として整備されました。施設整備にあたり、「今治モデル」として、①廃棄物を安全かつ安定的に処理する施設、②地域を守り市民に親しまれる施設、③環境啓発、体験型学習および情報発信ができる施設、の3つの柱をコンセプトとして定められました。

ここでは、②および③の取り組みの一部をご紹介します。

地域に必要とされる避難所機能(写真1)

本施設は、今治市内で災害等が発生した際に避難所としての機能が求められています。普段は研修室等として利用されている空間を開放し、320の方が避難可能なスペースを確保しており、災害備蓄品等も備えています。また、ごみ処理施設の特徴である発電機能を活かし、有事の際でも電気を使用できます。これらの取り組みはジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2019でグラン

プリを受賞するなど、高く評価され注目されています。

2018年9月30日に台風24号が今治市を直撃した際には、「施設に避難したほうが安全」ということで、台風が落ち着くまでの間、近隣の方に避難所として利用いただきました。



写真1 避難所機能の一例

市民が集う憩いの場(写真2)

本施設は、周辺の鹿ノ子池公園等と合わせて「市民の交流や憩いの場」を目指しています。環境啓発やスポーツ活動等の地域交流、環境フェスティバルをはじめとしたイベントの場として広く活用してもらう工夫をしています。

①地域活動の場

施設の多目的室や大研修室等を貸し出し、市民が施設に立ち寄りきっかけを創出しています。また、環境教育・防災研

修等の利用は無料で、環境や防災に紐づく活動を支援しています。



写真2 鹿ノ子グリーンパークからの風景

②環境フェスティバル(写真3)

「いまばりを日本一美しいまちへ」をスローガンに、子どもから大人まで環境を考えて楽しめるイベントを行なっています。普段はごみの受け入れを行うプラントホームをメイン会場に、イベントステージや、フリーマーケットやハンドメイド等の出店が軒を連ねます。



写真3 いまばり環境フェスティバル

③環境・地域・防災イベント

環境啓発・地域コミュニティ・防災をテーマとしたイベントを定期的を実施しています。環境啓発のメニューやイベントでは、「成果物を持ち帰ることができるワークショップ」を主体として多くのリピーターを確保しています。親子で一緒に参加できる内容として、環境について学べるだけでなく、幅広い世代の交流を促進します。

これらの工夫により、現在は年間2万人以上が訪れる「憩いの場」として活躍しています。

心に残る施設見学

施設見学は子どもたちにも分かりやすく印象に残るように、「理解しやすさと興味を引くこと」をコンセプトとしています。

①理解を促すプログラム

環境にあまり関心がない見学者にも興味をもってもらうよう、自ずと環境を守る行動を促す工夫をしています。例えば、エントランスでは映像やグラフィック等を用いて、地球規模の環境から今治の自然・産業まで幅広い内容を学べます。工場見学では施設を周回するルートで、大型の見学窓から設備を眺めながら、施設の役割を理解してもらいます。

②興味を持ってもらう見学設備

見学設備は見学者の心に残るように、施設の中身が見える迫力のある展示と、楽しみながら学べる工夫をしています。例えば、目の前に見えるごみクレーンや、上から見渡すごみピット等、設備の動きと迫力で興味をかきたてます。

また、1日2回の施設見学ツアーを行っており、市民の方々は気軽に見学できます。毎年約2,000名の方が施設見学に訪れています。

最後に

市民からは「ごみ処理施設のイメージが変わった」との感想と「防災機能が頼もしい」との意見をいただいています。今後も環境や交流の大切さを伝え、世代をつないで地域を活性化させる、これらのごみ処理施設のモデルを目指してまいります。